

ヤロスラフ・トゥーマ 大嶋 義実 チェンバロ&フルートデュオ コンサートシリーズ第6弾



日時：2016年11月18日(金) 開場18:30 開演19:00
会場：スミス記念堂 (彦根市本町3丁目 滋賀大学より徒歩3分)
定員：50名(要申込み 先着順) **入場無料**



音楽大国と言え、日本ではバッハやベートーヴェンを生んだドイツのイメージが定着しているようです。しかし、18世紀のヨーロッパで本当に活躍していた音楽家はチェコ(ボヘミア)やイタリア出身の音楽家たちでした。なかでもボヘミアは《ヨーロッパの音楽学校》と称賛されるほどに、たくさんの才能を輩出し、ヨーロッパ全域に活動の場を広げていました。ベンダはプロイセンのフリードリヒ大王に仕え、サン・スーシー宮殿でコンサートマスターを勤めました。ヴァニユハルはウィーンであまりに売れっ子になったため、史上初めて作曲家として自立した活動を開始しました。モーツァルトに多大な影響を与えたマンハイム楽派のスタミッツ(シュターミッツ)もチェコ出身です。彼らは音楽史の発展に多大な貢献をしたにもかかわらず、大国の民族意識が19世紀になり高まると、歴史の裏側に葬り去られていきました。歴史の裏側に忘れられた彼らの音楽に焦点をあて、再評価を試みるコンサートです。

PROGRAM

- | | | |
|----------|------------------|--------|
| F.ベンダ | フルートと通奏低音のためのソナタ | ニ長調 |
| F.ベンダ | チェンバロのためのソナタ | ト長調 |
| J.ヴァニユハル | フルートと通奏低音のためのソナタ | ト長調 ほか |

※ 都合により内容に変更がある場合がございます。ご了承ください。

プラハの街にきらめく黄金のデュオ

オランダ・ハーレム国際コンクール優勝
ライプチヒ・バッハ国際コンクール第二位など
世界を舞台に活躍するオルガン界の若き巨匠ヤロスラフ・トゥーマと、
20年デュオを組み、日本人フルート奏者として初めて
『プラハの春国際音楽祭』より招待を受けた大嶋義実が、
プラハでの夢の共演を再現。

ヤロスラフ・トゥーマ (チェンバロ) *Jaroslav Tuma - Cembalo*



オランダ・ハーレム国際コンクール優勝、リンツ・ブルックナー国際コンクール第二位、ライプチヒ・バッハ国際コンクール第二位、ニュルンベルク国際コンクール第二位、プラハの春国際コンクール第三位入賞と最年少優秀賞受賞など12のコンクールを制覇、輝かしい経歴を持つ。ヨーロッパ各地、日本、アメリカ、カナダへコンサートツアーも毎年行い好評を博している。

オーケストラとの協演も数多く、チェコフィルの定期演奏会をはじめ、日本でも各地のオーケストラの定期演奏会に迎えられ絶賛を博す。CD録音は「ボヘミアの歴史的オルガン」シリーズI～VIの連続リリース、クラヴィコードによるバッハの平均律全集やゴールドベルク変奏曲、フォルテピアノによるハイドン「十字架上のキリストの最後の七つの言葉」など、鍵盤奏者として多彩な面を見せている。プラハ芸術アカデミーで後進の指導にあたる傍ら、各地の国際コンクールに審査員として招聘されるなど、ヨーロッパに於けるオルガン・チェンバロ界の「若き巨匠」と呼ばれるに相応しい地歩を固めている。

大嶋 義実 (フルート) *Yoshimi Oshima - Flute*



プラハ放送交響楽団首席、群馬交響楽団第一フルート奏者を経て、京都市立芸術大学・大学院教授。京都市芸大卒業後、ウィーン国立音大を最優秀を得て卒業。日本音楽コンクール、マリア・カナルス国際コンクール、日本管打楽器コンクール他に入賞入選。国内はもとよりロンドン、ウィーン、プラハ、フィレンツェ、ローマ等ヨーロッパ各地で毎年公演を行うほか、プラハ交響楽団、スロヴァキア室内合奏団等、数多くのオーケストラと協演。日本人フルーティストとして初めて『プラハの春国際音楽祭』に出演する他、各地の音楽祭に出演。J. スーク、W. シュルツをはじめウィーンフィル、チェコフィル、ベルリン・ドイツオペラの首席奏者達と共演を重ね、その演奏は各国で度々放送されている。

2008年にリリースしたCD「モーツァルト・フルート四重奏曲全曲&協奏曲第1番」はヨーロッパの主要音楽誌上においていずれも最高票を獲得。仏ディアパソン誌上ではパユ、ゴールウェイ、ガロワらのものと比してなお「モーツァルト信奉者たちを統合するための全てを備えている」と賛辞を呈された。13枚のCDをリリース。2011年末に出版されたエッセイ集「音楽力が高まる17のなに？」も好評を博している。

お申込み・お問合せ：滋賀大学経済経営研究所 tel. 0749-27-1047 (月～金) 9:00～17:00

使用チェンバロについて *Frantisek Vyhnalek - Cembalo*

16世紀から18世紀のルネッサンス、バロック期にヨーロッパで栄えた鍵盤楽器。ピアノが弦をハンマーで叩くのに対し、チェンバロは弦を爪状の物で弾いて音を出す。その響きは繊細にして典雅、控えめで古風な色合をもちながらも、芯の通った表現を聞かせる。ソロ楽器としてはもちろん、フルートとのアンサンブルは何物にも変えがたい絶妙な音色の融合感を持ち、18世紀のヨーロッパの宮廷を彷彿とさせる響きをもつ。

今回使用するチェンバロは、プラハ郊外にアトリエをもつ、F. ヴィフナーレク氏製作のジャーマンタイプ、ドイツ・アイゼナハのバッハ博物館(バッハの生家)に残る楽器の復元モデル。